

大阪府より がん診療拠点病院訪問

診療内容や患者支援の 取り組みについて意見交換

10月5日、「がん診療拠点病院である、耳原総合病院の診療内容や患者支援の取り組みについて意見交換をする」とを目的に、大阪府職員、大阪国際がんセンター・総長、堺市立総合医療センター・がんセンター長をはじめ、計6人の訪問をうけました。

最初に、化学療法室、サポートセンター、医療情報管理室、病理検査室、緩和ケア病棟などを見学されました。緩和ケア病棟では、テラスの見晴らしの良さに驚かれ、サポートセンターのがん相談支援センター窓口業務については「窓口の看板がわかりやすく、面談室もプライバシーを配慮されていますね」と高評価をいただきました。

院内見学後は、河原林 病院長や山口副病院長他、がん医療に携わる各部署のスタッフと交換を行いました。



まず「耳原総合病院の医師の緩和ケア研修の受講率が100%は素晴らしい」とお褒めの言葉をいただきました。その後、人的体制や手術件数、診療報酬算定件数等、がん医療に関する様々な視点での

大阪国際がんセンター・総長には、「多くのがん患者さんが貴院を受診することを心から期待します」と声をかけていただきました。

今回の大阪府の訪問は、当院の医療活動を振り返る貴重な機会となりました。引き続き、病院スタッフが一丸となってがん医療と患者支援に取り組む、情報発信しながら、地域のがん医療の向上に尽力いたします。

(耳原総合病院
サポートセンター
地域連携室
出口 和洋)

第28回 耳原総合病院 「地域連携をすすめる会」を開催

顔の見える関係性を構築し連携強化

そのため、かかりつけ医・病院との診療連携が非常に重要となり、顔の見える関係性構築を目的に地域医療連携をすすめる会を開催してきました。本年度は10月5日(土)に開催し、54人の方に参加していただきました。

第一部では、河原林正敏病院長より「病院活動報告」と題して、この間の病院の活動実績を振り返るとともに今後の医療構想について報告しました。

耳原総合病院は、2012年に大阪府より地域医療支援病院として認可されました。地域医療支援病院は、必要な医療を確保し、地域の医療機関の連携等を図る観点から、かかりつけ医等を支援する役割を担っています。

続いて、大矢亮総合診療科部長兼副病院長が「GP+1カンファレンス紹介」をテーマに診療の質向上の取り組みを紹介しました。産婦人科からは高木力医長より、「当院産婦人科のご紹介」と題して、

地域の医療機関からの患者紹介のタイミングや、近隣の産婦人科クリニックで対応可能な症状と当院への紹介が必要となる症状についてお伝えしました。

最後に、齋藤允孝泌尿器科部長が「聞いて、見て、触れて、感じる」

ダヴィンチの体験



a Vinci

「ロボット支援手術」をテーマに、手術支援ロボット da Vinci を使用した手術の特徴についてご紹介しました。

第二部では、緩和ケア病棟、ER・心臓カテーテル検査室、手術室の見学コースに分かれ、診療現場を見学いただきました。特に、手術支援ロボット da Vinci の実演と操作体験は、参加者に最先端の医療技術を直接体感していただく機会となり好評でした。

当院は引き続き、同仁会グループ事業所を含めた、かかりつけ医・病院との連携強化を進め、断らない救急診療・質の高い専門治療をよりスムーズに提供できるよう努力してまいります。当院への受診方法でご不明な点がございましたら、サポートセンターへお気軽にお問い合わせください。

(耳原総合病院
サポートセンター
端 伸一郎)



懇親会の様子



緩和ケア病棟のテラス

がん支援センターの窓口

